

2020年（令和二年）

12月4日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

11/19～11/25のNYMEX・WTI先物市場は、41.74～45.71ドルの範囲で推移した。

11月26日は、米国市場は、感謝祭日のため休場。

週末27日は、新型コロナワクチンへの期待感、OPECプラスの次回会合での減産緩和見送り観測が高値を支える中、利益確定売りや高値警戒感による売りも出て、小幅に反落した。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比10基増の241基と2週ぶりの増加となった。1月限の終値は前日比0.18ドル安の45.53ドル。

週明け30日は、石油輸出機構(OPEC)総会がWEB開催、来年1月からの減産に関する決定は、1日の非加盟減産参加国とのOPECプラス合同閣僚会議に持ち越されたが、先行き不透明感から、小幅に続落した。為替相場のドル高・ユーロ安も原油先物の割高感を生み、低下要因となった。1月限終値は前週末比0.19ドル安の45.34ドル。

1日は、1月からの減産をめぐる産油国間の意見集約が難航、同日開催予定のOPECプラス合同閣僚会議が3日に延期されたことから、3営業日続落した。1月限の終値は前日比0.79ドル安の44.55ドル。

2日は、英国政府がファイザー社の新型コロナワクチンを承認し、ワクチン普及への期待から、4日ぶりに反発した。他方、OPECプラスの閣僚合同会議の協議難航、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比70万バレル減と市場予測より小さかったことが、相場の下押し要因となった。1月限の終値は前日比0.73ドル高の45.28ドル。

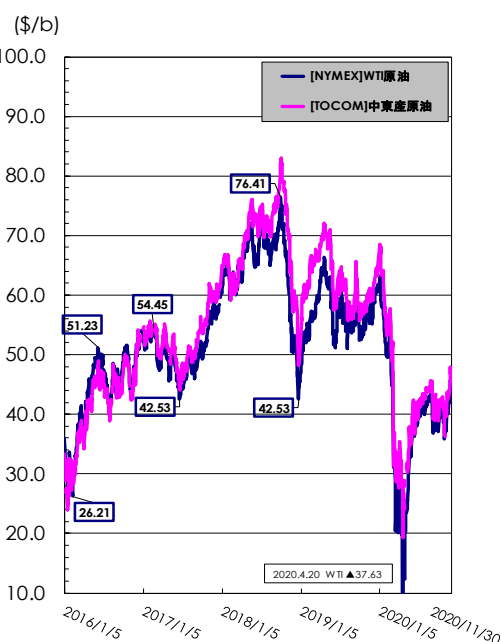
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は11月19日～25日の間43.90～47.60ドルの範囲で推移した。11月26日48.50ドル、27日47.40ドル、30日46.50ドル、12月1日47.30ドル、2日47.30ドルと推移した。

為替は11月19日～25日の間103.87～104.58円の範囲で推移した。11月26日104.34円、27日104.15円、30日103.89円、12月1日104.26円、2日104.35円で推移した。

財務省が11月27日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は、28,289円/klで、前旬比827円安、ドル建て42.85ドルで前旬比1.01ドル安、為替レートは1ドル/104.96円。

そのような中で、11月30日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油も同0.3円の値上がり、灯油は2円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。この週(11月第5週)の原油コストは大きく値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比2.0円の引き上げとなった。

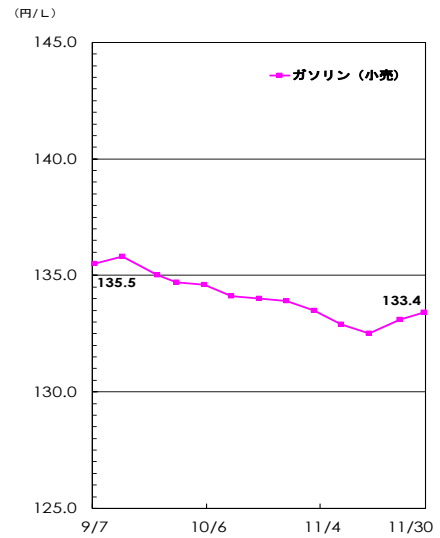
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/22～11/28	2,840	▲0
	トッパー稼働率 (%)	"	73.8	▲0.0
	原油在庫量 (千kl)	11/28	11,578	▲655
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/30	46.73	▲1.16
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/30	45.34	▲2.28
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	42.85	▼-1.01
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,289	▼-827
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	104.96	▲0.57
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/30	104.89	▲0.69



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/22 ~ 11/28	970 ▲ 176	▲ -
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	778 ▲ 4	▼ -
	輸出	"	94 ▲ 52	▼ -
	在庫	11/28	1,993 ▲ 98	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/24 ~ 11/30	43.1 ➡ 0.0	▼ -16.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/24 ~ 11/30	42.0 ▲ 1.7	▼ -13.8
	(TOCOM/中部)	11/30	44.0 ▲ 1.3	▼ -13.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/30	133.4 ▲ 0.3	▼ -13.9

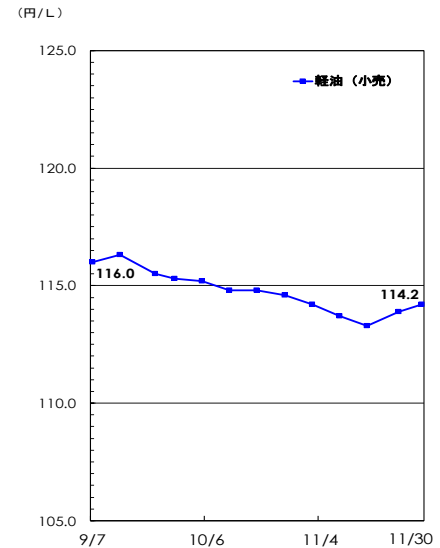
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

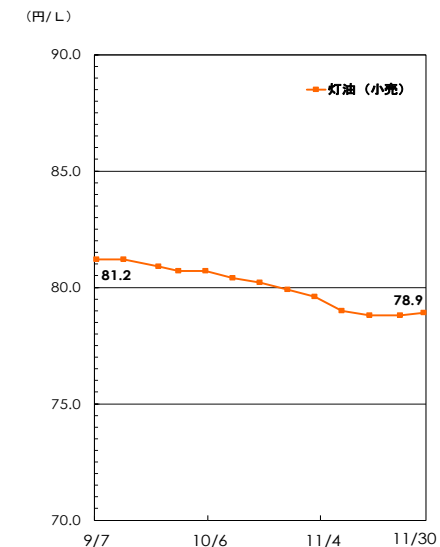
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/22 ~ 11/28	606 ▼ -29	▼ -
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	551 ▼ -66	▼ -
	輸出	"	28 ▲ 8	▼ -
	在庫	11/28	1,622 ▲ 26	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/24 ~ 11/30	45.9 ▲ 0.4	▼ -16.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/24 ~ 11/30	48.8 ▲ 1.7	▼ -15.6
	(TOCOM/中部)	11/30	- -	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/30	114.2 ▲ 0.3	▼ -13.6

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/22 ~ 11/28	354 ▼ -57	▼ -
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	263 ▲ 22	▼ -
	輸出	"	30 ▼ -43	▼ -
	在庫	11/28	2,924 ▲ 61	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/24 ~ 11/30	45.0 ▼ -0.1	▼ -17.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/24 ~ 11/30	45.4 ▲ 2.5	▼ -15.2
	(TOCOM/中部)	11/30	46.7 ▲ 2.6	▼ -15.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/30	78.9 ▲ 0.1	▼ -12.9



■ 関連情報

1 海外/原油

12月2日のNYMEXのWTI先物原油は、同日、英国政府がファイザー社の新型コロナワクチンを承認するなど、ワクチン普及への期待等から、4日ぶりに反発した。最近の原油価格低下による安値拾いの買いも出た模様。他方、協議難航によるOPECプラスの閣僚合同会議の開催延期、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比70万バレル減と市場予測(同240万バレル減)より小さかったことが、相場の下押し要因となった。1月限の終値は前日比0.73ドル高の45.28ドル、2月限の終値は同0.71ドル高の45.44ドル。

EIAによると、11月30日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.8セント値上がりの1ガロン2.120ドル(58.7円/ℓ)、

ディーゼルは同4.0セント値上がりの2.502ドル(69.2円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年11月22日～11月28日に休止したトッパー能力は35.9万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は284.0万klと、前週に比べ0.0万kl減少。前年に対しては70.6万klの減少。トッパー稼働率は73.8%と前週に対して0.0ポイントの減少、前年に対しては16.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/22.2%増、ジェット/38.5%増、灯油/13.9%減、軽油/4.6%減、A重油/2.6%減、C重油/21.9%減。今週のC重油の輸入は0.2万kl(前週比0.3万kl減)。軽油の輸出は2.8万kl(前週比0.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は77.8万kl(対前週0.4%増)と3週振りで増加した。ジェット6.2万kl(対前週56.9%減)、灯油26.3万kl(対前週9.3%増)、軽油55.1万kl(対前週10.6%減)、A重油21.3万kl(対前週5.1%増)、C重油10.8万kl(対前週32.6%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (11/22 ~ 11/28)	前週 (11/15 ~ 11/21)	前週比	
ガソリン	778	774	▲ 4	(1%)
ジェット燃料	62	145	▼ -83	(-57%)
灯油	263	241	▲ 22	(9%)
軽油	551	617	▼ -66	(-11%)
A重油	213	203	▲ 10	(5%)
C重油	108	161	▼ -53	(-33%)
合 計	1,975	2,141	▼ -166	(-8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月28日時点の在庫は、A重油、C重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは199.3万kl、前週差9.8万kl増。前年に対しては47.8万kl多い。

灯油は292.4万kl、前週差6.1万kl増。前年に対しては16.4万kl多い。

軽油は162.2万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては6.1万kl多い。

A重油は77.9万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては6.7万kl多い。

C重油は184.0万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては20.7万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (11/28)	前週 (11/21)	前週比	
ガソリン	1,993	1,895	▲ 98	(5%)
ジェット燃料	810	806	▲ 4	(0%)
灯油	2,924	2,863	▲ 61	(2%)
軽油	1,622	1,596	▲ 26	(2%)
A重油	779	790	▼ -11	(-1%)
C重油	1,840	1,864	▼ -24	(-1%)
合 計	9,968	9,814	▲ 154	(1.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月24日～11月30日の指標原油価格は前週比で大きく値上がりし、為替レートもわずかに円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比2.0円の引き上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月24日～30日の製品スポット市況は、11月17日～23日平均と比べ、ガソリンの陸上取引の横ばい、灯油の陸上取引の値下がりを除いて、全油種・全取引で値上がりした。

直近(11/24～11/30)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(11/17～11/23)比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.4円の値上がりだった。直近(11/24～11/30)において、ガソリンは96～98円台でわずかに値下がり後大きく値上がり、灯油は44～46円台でわずかに値下がり後大きく値上がり、軽油は45～47円台でわずかに値下がり後大きく値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(11/24～11/30)に、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(11/24～11/30)に、ガソリンは98～100円台で値下がり後大きく値上がり、灯油は43～46円台で大きく値上がり、軽油は47～48円台で値下がり後大きく値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.7円の値上がり、灯油は2.5円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。先物価格は、同期間(11/24～11/30)に、ガソリン95～96円台で大きく値上がり後値下がり、灯油44～46円台で大きく値上がり後値下がり、軽油48～49円台で大きく値上がり後値下がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	陸上ローリー 4地区平均]	今週 (11/24 ~ 11/30)	前週 (11/17 ~ 11/23)	前週比
	レギュラー	43.1	43.1	➡ 0.0
	灯油	45.0	45.1	▼ -0.1
	軽油	45.9	45.5	▲ 0.4

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (11/24 ~ 11/30)	前週 (11/17 ~ 11/23)	前週比
先物価格	レギュラー	42.0	40.3	▲ 1.7
	灯油	45.4	42.9	▲ 2.5
	軽油	48.8	47.1	▲ 1.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/24～11/30実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	→ 0.0	▲ 1.7	▲ 0.9
灯油	▼ -0.1	▲ 2.5	▲ 1.2
軽油	▲ 0.4	▲ 1.7	▲ 1.1
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の133.4円、軽油も同0.3円高の114.2円、灯油は18ℓベースで同2円高の1,421円(1ℓベースでは78.9円で同0.1円高)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは32都府県、横ばいは9道県、値下がりが6県となった。全国最安値は125.1円の宮城県(前週比横ばい)、その次に安かったのは126.6円の徳島県(同横ばい)、最高値は143.1円の大分県(同横ばい)だった。最も値上がりしたのは、同1.5円高の大

阪府(135.3円)、横ばいは石川県等9道県、最も値下がりはしたのは、同0.9円安の愛知県(132.9円)だった。

今週(11月24日～11月30日)は、指標原油価格は大きく値上がりし、為替レートもわずかに円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週(12月3日～9日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比2.0円の引き上げとなった。次回調査時(12月7日)のガソリンの小売価格は、値上がり予想される。

					(単位: 円/ℓ)	
(資工庁公表) [週動向]		今週 (11/30)	前週 (11/24)	前週比	直近高値	
小 売 価 格	レギュラー	133.4	133.1	▲ 0.3	08/8/4	185.1
	灯油	78.9	78.8	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	114.2	113.9	▲ 0.3	08/8/4	167.4

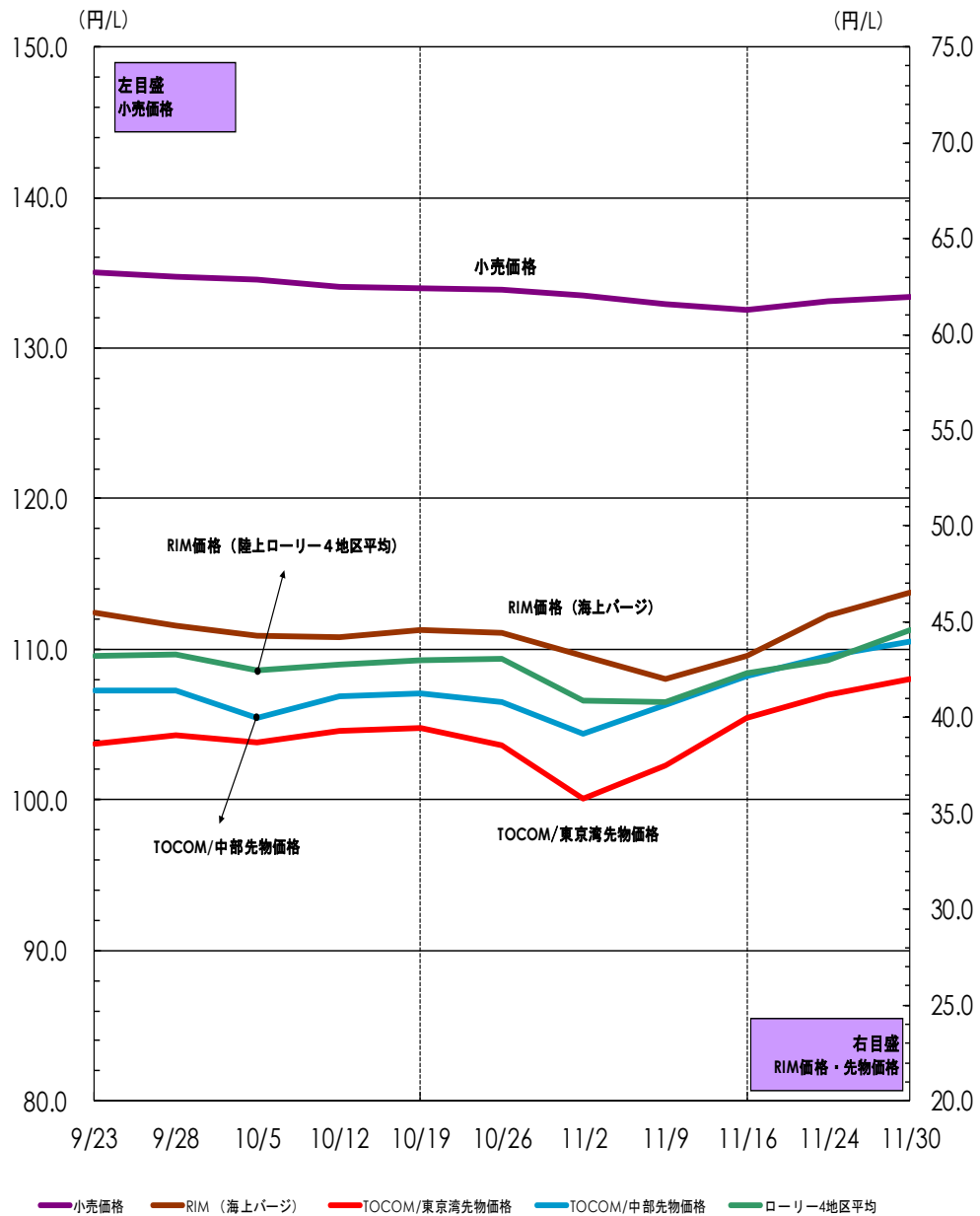
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/9/23 ~ 2020/11/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第23号)の公表は、12/11(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。